

どこまで自然を破壊するのか!

リニア中央新幹線 建設反対!!

昨年10月28日、東京都品川区でリニア工事が起因で路面が13センチも隆起するという事象が発生しました。JR東海はその原因と対策の説明をする住民説明会を品川区において2月1日と2日に開催しました。説明会というものの、メディアを排除し、質疑応答も途中で打ち切れ一方的に閉会をされたそうです。住民からの意見、質問に真摯に答えるというよりまさにアリバイ的に行われたということです。

また、リニアのトンネル掘削工事で井戸の水位低下や地盤沈下が発生した、岐阜県瑞浪市大湫町でも2月1日に住民説明会が開催されました。それによると、地盤沈下の影響で稲の発育不良が生じた田んぼの修繕、床が傾いた消防センターの補修工事を実施することを明らかにしました。

環境影響評価書では一部の地域に影響が及ぶとしているが

ところで、道路、ダム、鉄道、空港など事業者自らが事前に環境への影響を調査・予測・評価し、住民や自治体の意見を反映させて、環境保全に配慮した計画であるはずの「環境影響評価」。しかし結果的に、これだけ各地で頻繁に隆起、地盤沈下、水位低下などが発生し、地域住民に多大な損害を与えるに至った根拠となるその「評価書」。

全てが疑わしいと思わざるを得ません。

当初は2027年開業を目指し、開業ありきで進められてきた「リニア中央新幹線建設計画」。多少の（自然や住民にとっては将来に亘って多大な）犠牲はお構いなし、時間的制約が故に調査・予測も正当に行われたのでしょうか。

これはまるで先般、浜岡原子力発電所において、再稼働を急ぐあまり時間的制約が引き金となったとされる、基準地震動策定データのねつ造・改ざん問題と同じではないでしょうか。開業ありきで急ぎすぎたのでは？

リニアは永遠に闇から抜け出せない！！